



藤田 旭山 (ふじた きよくざん)
1903(明治36)年～1991(平成3)年

個性と自由を尊重する俳句をめざした旭山。師の室積祖春むろづみそしゆんに、「淡泊、透徹、水の如き」と好まれた彼の作品と人となり、句集、主宰俳誌「俳海」、色紙・短冊、直筆原稿等で展示紹介いたします。

2021年 11月2日(火) ~ 2022年 3月26日(土)

旭川文学資料館 《Asahikawa Museum of Literature》

開館時間 10:00～16:00
休館日 毎週日・月曜日、祝日、年末年始
※11月3日(文化の日)は通常開館いたします。

入館料 **無料**

【お問い合わせ】「NPO法人 旭川文学資料友の会」
〒070-0044 旭川市常磐公園旭川市常磐館内 TEL/fax: (0166) 22-3334

※ご来館の際は、マスクの着用、手指の消毒等の感染症予防にご協力をお願いいたします。
また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、延期や中止となる場合がありますのでご了承ください。

藤田 旭山 展

旭川ゆかりの俳人
水の如く淡々たる

きよくざん

旭川文学資料館
(旭川市常磐公園 旭川市常磐館内)
企画展示室

藤田 旭山 (ふじた きょくざん)

【1903(明治36)年1月16日～1991(平成3)年3月6日】

藤田長次郎、るいの六男三女の長男として北海道士別村(現士別市)大通6丁目に生まれる。本名 国道(くにみち)。

大正4(1915)年、家業の移転により旭川区(現旭川市)4条通16丁目に移る。同10年、北海道庁立旭川中学校(現旭川東高等学校)第14期卒業。14年、明治大学在学中に室積徂春に師事。

昭和2(1927)年、明治大学法学部卒業。父の経営する酒造業藤田合名会社(後に日本清酒と合併)入社。同年松枝(月女)と結婚、その後三男三女をもうける。同年、室積徂春主宰の「ゆく春」創刊に参画、「旭川ゆく春会」創立。5年、旭川市宮下通22丁目に自宅建築。来道し宿泊した徂春師より「旭光荘(きょっこうそう)」と命名される。19年、北海道庁立旭川工業学校(現旭川工業高等学校)教諭として就職。

昭和22(1947)年頃より、新聞俳壇選者、旭川俳句連盟理事等で後進の育成につとめ、28年度、旭川市文化賞受賞。43年、旭川工業高等学校退職。同年10月、「俳海(はいかい)」創刊。以後没するまで240号を発刊。

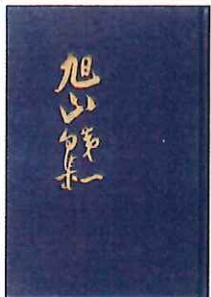
平成3(1991)年3月6日、自宅にて死去。行年89歳。



藤田旭山 句碑

旭川市旭山公園
1979(昭和54)年10月建立

「雪虫の夕ぐれ青し旭川」



『旭山第一句集』
室積徂春選
昭和13(1938)年5月25日
ゆく春発行所(東京市)



旭山第三句集『虚心抄』
昭和41(1966)年11月3日
題字 赤石蘭邦
さし絵 佐藤進/カット 杉本勝義



『苔の花』第二号
旭川工業高校文芸部機関誌
昭和24(1949)年7月23日
旭山も作品を寄せ指導



俳誌「俳海」創刊号
昭和43(1968)年10月1日
俳海発行所
祝詩 小池栄寿/祝辞 三浦綾子他

旭山短冊「唇に舞ひきし雪の甘さかな」

唇に舞ひきし雪の甘さかな
旭山

旭川文学資料館



交通(バス)のご案内 「常磐公園前」下車

●旭川電気軌道バス(所要時間8分)

駅前バスタッチ発 4番乗場: 5・6・81番、1条8丁目乗場: 14番

●道北バス(所要時間8分)

駅前バスタッチ発 3番乗場: 28・29

宮下通駅前 22・23番乗場: 10・14・15・114・530番

※旭川駅前から、徒歩で約25分です。

〒070-0044 北海道旭川市常磐公園1971-5

旭川市常磐館内 TEL/FAX(0166)22-3334

■開館時間/10:00～16:00

■休館日/毎週日・月曜日・祝日・年末年始

■入館料/無料

■駐車場/有

当館のホームページもご覧ください。

<http://www.abs-tomonokai.jp>



特定非営利活動法人 旭川文学資料友の会が運営しています。
2001年に活動を開始、2009(平21)年5月17日に開館しました。